

## 令和5年度第2回 恵那市介護保険運営協議会議事録

I 日時 令和6年2月19日（月）午後1時30分～午後2時20分

II 場所 恵那市消防防災センター 3階 防災研修室

III 審議委員 長谷川核三会長、  
山田忠委員、大木八重子委員、鈴木裕子委員、  
上野たき子委員、松原淑明委員、西尾由香委員、  
山本徳二委員、野田充委員、島崎太郎委員、  
水野修宏委員、鈴木隆文委員、坪井弥栄子委員、  
三宅弘文委員  
(欠席) 篠原勝彦副会長、前野禎委員、鈴木弘二委員、  
勝由美子委員

IV 傍聴者 4名

### V 次第

1. 開会

2. 議事

(1) 介護保険事業の実施状況について

(2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について

(3) 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金について

3. その他

4. 閉会

### VI 議事録

1. 開会

#### ■事務局

定刻なので開会する。

この協議会は、介護保険事業の円滑な運営と、介護保険制度の推進を図るために設置されるもので、①介護保険事業に関する施策の実施状況に関する事、②介護保険事業に関する調査研究、③その他介護保険に関して必要な事項を協議いただくものである。

また、会議は、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録も要約版を公表する。

開会のあいさつを医療福祉部長が申し上げる。

■医療福祉部長

本日は第2回恵那市介護保険運営協議会、恵那市地域密着型サービス運営委員会を開催するとともに、皆様から多数ご意見を頂いた第6回恵那市介護保険事業計画策定委員会にて最後に計画案を示すため、存分にご意見賜りたい。

■会長

令和5年7月15日に第1回目を行った。今回も忌憚のないご意見をよろしく願います。

## 2. 議事（進行：会長）

### （1）介護保険事業の実施状況について

[ 事務局説明 ]

■会長

質問、意見を求める。

私の方から一点質問する。介護保険事業の運営について、年度で安定しているように見られるが、他市と比較するとどうか。

■事務局

他市の詳細なデータは持ち合わせていないが、他市でも基金等を崩したなどという声は聞いておらず、どの市も計画想定内で行っていると思われる。

■会長

理解した。他に質疑は無いか。

では、議事の承認を求める。承認の方は挙手をお願いする。

[ 全委員挙手 ]

全員一致で承認とする。

### （2）介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について

[ 事務局説明 ]

■長谷川会長

質問、意見を求める。

■委員

8ページの③訪問型サービスCについて。予算と実績が離れているが、理由があるのか。

■事務局

訪問型サービスは栄養指導の部分と歯科訪問の部分があるが、PRが不足しているのかプランに挙がらなかったり、利用に繋がらなかったりする部分がある。

今年度もケアマネジャーに説明を行っているが、「食事を作ってくれるなら良いが、栄養の指導を受けるだけならサービス料を払ってまでやり

たくない」などといった理由もありなかなか進まない。すこやかお口訪問でも歯科衛生士が口腔体操やマッサージを行うものであるが、このサービスを利用しなくても訪問歯科診療など他に選択肢があることもあるためか、このサービスに繋がっていないところが大きい。希望として、もう少し利用していただきたいと思っている。

■会長

その他どうか。以前、皆が知らないのでもうまくいっていないという声があったが、市にこういうものがあればもっと利用ができるというような、現場でのご意見を教えてほしい。

■委員

対象者となる方が高齢者で、介護する側も高齢者であるため、栄養指導と言われても毎日の食事の中でどこまで希望されるのか、こちらもどれだけ提案したらよいかという点がある。

病気で入院している方は病院でも栄養指導があり、そこから更に在宅でとなると進めにくい。

糖尿病だから何キロカロリーと言われても実際にはできない。毎日のこととなると難しいところがある。

■委員

9ページの④地域支援事業について。内容を知らない方がとても多い。三郷町では、昨年末に65歳以上の方に今後5年間を見据えて困りごとのアンケートを実施した。15項目ほどあったが、かなり該当者が多く、送迎や掃除、庭木の伐採など細かな困りごとを書いた人がかなりおられた。

誰が支援を行うのか地域ケア推進会議で話をしたところ、介護保険を使っていないので、みさと愛の会や地域包括支援センター、シルバー人材センターなどが担当することになった。

担当をまとめ、それぞれの連絡先を書いて3月の広報に全戸配布するなど周知も行っているところだ。

認定を受けない人が出てくるかもしれないが、安心して地域で暮らせるための手法に取り掛かっている。

■会長

良い取組みだと思う。金銭面は大丈夫か。

■委員

みさと愛の会に入るのに年間1,000円いただいている。ボランティアをする人、してほしい人、協賛する人に会員になってもらっている。その会員からいただくお金で運営している。

また、区・森林組合・社会福祉協議会から少しずついただいたり、資源回収を行ったりして、今は運営できている。

立ち上げた12・3年前はボランティアが当たり前だったが、今の60代70代前半の方は無料ではできないというので、資金をどうすればよいか

が悩みの種だが、我々が元気なうちは今のままで行うつもりだ。

どの地域でもお金の問題は大事だと思っている。

■委員

9 ページの包括的支援事業 若年性認知症の人と家族の支援について。

「認知症地域支援推進員による訪問支援」があるが、推進員とはどういった方になるのか。

■事務局

地域包括支援センター職員で、推進員の研修を受けた者となる。

■委員

先日テレビで若年性認知症の方を取り上げたものがあつたが、我々は誰も認知症になつたことがない。認知症の方の思いや家族の思いは分からないことがある。当事者の方が相談役という役割をもつてやっている。素晴らしいと思ひ、恵那市でもできればその人にも役割ができる。当事者そのものなのでよい相談相手になると思ひ意見した。

■事務局

昨日、初期集中支援チーム研修会の座談会があつた。恵那市では認知症の方の把握ができておらずなかなか支援にたどり着いていないが、岐阜県に認知症大使という方が3名おられ、認知症になつた方が自分のことを発信し、認知症になつてみて、支援してほしいことなどを話す機会を設けておられる。

当事者の気持ちはなかなか分からないが、昨日のお話をされた方は52歳で発症し今55歳で、今は病院で支援する人とつながつたため、その病院内で花の世話や消毒するなどをしているという話をされていた。若年性アルツハイマーになっているため、持ち物や作業の手順を忘れやすい。人に聞きながら仕事を続けておられる。認知症のことを理解しながら周りの人が上手に支えていくことが大事だと感じた。

恵那市でも、日々活動している中で職員が認知症の方から気持ちを聞きながら貯めて、皆さんに活動として返していくことができればと思っている。

■委員

できればいいではなく、いつ頃までにやるのか。

認知症の人は症例により少し違ふことはあつても、それ以外の部分ではできることが十分ある。認知症の方への対応の仕方を我々に対して教育として伝えていただきたい。

いつ頃までにそういうものができるか、ケアマネジャーや指導員などが知ると安心して続けられると思う。

■事務局

今年度のうちに、今ある中で来年度はどうしていければよいか、携わる方から意見をいただきながら、認知症の方がこういうことを考えている

ということを第一弾という形でまとめられればと思う。

■会長

議論が尽きないところではあるが、時間もあるため議事の承認を求める。承認の方は挙手をお願いします。

[ 全委員挙手 ]

全員一致で承認とする。

利用率がまだ低いため、上げるための対策を市でお願いします。

(3) 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金について

[ 事務局説明 ]

[ 質疑なし ]

■会長

議事の承認を求める。承認の方は挙手をお願いします。

[ 全委員挙手 ]

全員一致で承認とする。

3. その他

・訪問・理美容サービス利用料金の変更について

[ 事務局説明 ]

[ 質疑なし ]

4. 閉会

■会長

恵那市介護保険運営協議会を閉会し、引き続き恵那市地域密着型サービス運営委員会を開会する。